## ６．書評

### 「世界のエリートが学んできた　自分の考えを『伝える力』の授業」




著者：狩野 みき
出版：日本実業出版社
発行：2014 年 6 月 6 日

「アメリカでは皆、自分の意見を持って堂々としているのに、僕はほとんど何も言えなかった。議論では取り残されるし、マズい、どうにかしなければ」アメリカでの駐在を終えて日本に帰国したビジネスマンの声である。このビジネスマンと同じような悩みを抱えている日本人にむけて、自分の意見を伝える力について教えてくれる本である。そもそも「意見」には「間違った意見」などはなく、意見は一人ひとりが自分の頭の中で作り出すもので、賛成する意見、反対する意見というものはあっても、「絶対的に正しい意見」というものはなく、「正しい意見」がないのであれば、「間違った意見」もない、つまり、意見を伝えたり、議論をしたりする場は本来、「言っていることが正解かどうか」を評価する場ではない。といった考えにそって、日本の社会や学校では教えてくれない「意見の伝え方」を教えてくれている。

本書の内容は大きく分けて４つの Lesson から成っていて、意見を伝えるためのコツがたくさん紹介されている。例えば Lesson １「世界のエリートが学んできた伝え方のコツ」ここではいくつかのコツを教えてくれる。

コツ１：『とにかく結論を先に言う』 意見の最重要情報は結論である。日本語は英語と比較した時にどうしても結論を後回しにしたくなる言語なので、とにかく結論を先に言う癖をつけるようにする。

コツ２：相手に合った話し方で話す。専門的な用語などは避けて、相手の年齢・職業などを考慮して分かりやすい言葉で話をするように心がける。

コツ３：話全体の流れを見せる。この話はいつまで続くのだろうと思われては相手にストレスをあたえてしまうので、話は今全体のどのあたりまで来ているのかを伝えることが大切である。

コツ４:大事な箇所は繰り返す。相手は人間であり、聞いたことは忘れる。したがって大切な話は繰り返すといった実にシンプルなコツである。

コツ５：断定的な口調は避ける。断定的な言い方は相手が反感を感じてしまうかもしれない。

このように自分の考えを伝えるためのコツが、多く紹介されている。横並びで頑張っていれば安心という時代は終わり、世はグローバル社会。自分の意見をきちんと持ち、それを伝え、議論することが出来なければ存在感がなくなってしまう時代である。謙虚な姿勢や場の空気を読む心配りは、日本人の美徳である。先日、生徒と共に香港で販売実習を行った。日本とは正反対で自分の主張をしなければ誰も気付いてくれない。そんな雰囲気が漂っていた。日本の美徳は大切にしながらも、グローバル社会で必要な意見を伝える力をしっかりと身につけることは、これからの社会を強かに生き抜く若者には必要なことなのだと思う。

起業教育研究会　企画委員
京都府立京都すばる高等学校 企画科学科長　貴島 良介